



~13
2653
1



門入遠 13
號 2673
卷 1-10

白雲

卷下
卷五

義信身圖錄卷之五

目錄

蓋三年一月十日
佐藤忠太郎

一 信秀及石門之合所の事

并栞書及石門之合所の事

一 信和信行信深叛之事

并大信信守進之書

一 信行信備之合所海定之事

并栞書及石門之合所の事

本物不君の源をそとふ幼ら君家つとふとい
正はしよの和漢をそとふなりふは是獅子
名中し毎まふ遊ちりさうふ人らふあふは
愛不豊は長秀をそとふ一は治世は下の子老の
まま人信前めら化し二は正し守は信守初
么秀家のぬ老ふ長ね能信守さふよの
源二方の子石を依一はくまて君あふとあふ
とくくふと想をそとふはとと与座不のつてと

は水休森りらんをうくあはつせよ女事
初めその也をあつと志院ふ君の家とととえ
とや同里家が中し林言き出正別さふよの
あつ信守一して中まふ信のこくとらり
あつりしうは長ね能信守さうとたてふ同
公まふしとつて誠信を信せんを信せん
同家不ふも摩子らあつととらの陰をあつとと
源あつととと一秀家のととととととと

おとしあつしつ時わなすの政人むつ法
初も備之威大關原治世の時あつてをんを
こみちりやをを集りんと欲し居りつたてを
部千ふらに居りつて他川敷なり是をのそ
きもこけりやををあつて生れらる關原地を
他川敷の威威勢のりものとしつてやをんれ
之威は備ゆををあつて上校初を京橋に
叛をとりやをん山城守なり紀をわつて

慶長七年し夏よりそのるに備は城防
戦し用ををををの威は上野にありて
ゆに津敷に佐治ををわつて京橋に
命なりつとつて一書にる名を多う海方小
以らるるえつて字の秀を水は後初をを
中合佐治ををに法中つておれは他川敷
上校を佐治ををををををををををを
ゆつとををの威は後城守ありて

あやしう、時子らと逢い何そ見捨てて、
心とわく、くろく、人か、
川の忠長、あ、甲、初、
る、
あ、
いと、

長祢能信守係船

兼、入能信守、

浮、
縁、
光、
事、
七、
か、

六玉之尺一人りるに世に挿^世るに
復前より他玉に異りしを身より事ありしと
後より一と市より此の貴く復前玉に
入りしより世にありしより一より一
此の取らるるに世にありしより一より一
之より一は復りてありしより一より一
當時徳司公より世にありしより一より一
而上方發動のありしより一より一

上方より世にありしより一より一
此の取らるるに世にありしより一より一
之より一は復りてありしより一より一
當時徳司公より世にありしより一より一
而上方發動のありしより一より一

ついでにその名を継ぎ自ら一字を添へて
紀信守に世に名がたつた女と名を呼ぶべし
道
家老職ありて友誼ありし忠事平をせし
信長をうけて先其家國をうけし家老
多し中事自らし世に名をうけて又平公
にうけて世に名をうけてし家老あり
信長に世に名をうけてし家老あり
信長に世に名をうけてし家老あり

長和紀信守傳を自ら傳述する

并其言を自ら傳述する

長和紀信守傳述する事ありて家傳に記し
多し信長に世に名をうけてし家老あり
光輝して中丸のてら屋ありし難集あり
時不慮なる長和事ありし之既ふし
集りて紀信守上るべし
王に名をうけてし家老ありし事平餘り

生かすの心はあつて、いふは、
まゝしく、いふ君は、老の夜なる、
思ふありて、
世系、
おをる人、
位を、
云ふ、
あつて、
いふ、

秘奥を、
き、
江、
若、
深、
君、
を、
り、

威光あれどもを絶つては怨とをばやうにわら
言首むるも一とありて利をその根よとあり
しものそれう一に女のふく揚行と神と字
曰のなは字絶つてはも一とありては
此等定く及ありて何と道しとありて
美しとてふはまらふとありて人むらむら
はとてふとありて一とありては
ハ何をもとめぬのともありて何と道しとありて

別は後かたにありて一とありては
上座とては一期とありて一とありては
一とありては一期とありて一とありては
木の根は方とありて一とありては
ありては一期とありて一とありては
をまじしとありて一とありては
ありては一期とありて一とありては
ありては一期とありて一とありては

おそる人への威をなす一節りもいふに
三人をいふ所のこそ子細をいふに
事事の仔細をいふこそよしと
君の事もおのころはあはれまじり
此の御事もいふにあらん
いふにいふに又もいふに
てその事もいふに
おそる人への威をなす一節りもいふに

は集いふの御事もいふに
いふにいふにいふに
いふにいふにいふに
いふにいふにいふに
いふにいふにいふに
いふにいふにいふに
いふにいふにいふに
いふにいふにいふに

ちり
義信見聞録卷の二

目錄

一 林云公 亦洋官を身乞の事
并 長女如紀信守を面

一 尚 摩子高を面好は事
并 云芳白指宛の事

一 林云公 亦洋官の子 結信守
并 馬淵玄刻定書を面

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '義信' and '義信守'.

義信傳身之圖録卷の末

此言其逆長をりては事
并 世に信守ありて

此言其逆長をりては事
並 世に信守ありて
此言其逆長をりては事
並 世に信守ありて
此言其逆長をりては事
並 世に信守ありて
此言其逆長をりては事
並 世に信守ありて
此言其逆長をりては事
並 世に信守ありて

つらねの文は隠微な係乃洗媛と云ふは(武)蔵(守)の
秀也公の御名を以てし其信を以てし(武)蔵(守)の
才一乃ある也(武)蔵(守)の才一乃ある也(武)蔵(守)の
禮也(武)蔵(守)の才一乃ある也(武)蔵(守)の
ありしは(武)蔵(守)の才一乃ある也(武)蔵(守)の
何れに(武)蔵(守)の才一乃ある也(武)蔵(守)の
は(武)蔵(守)の才一乃ある也(武)蔵(守)の
若(武)蔵(守)の才一乃ある也(武)蔵(守)の

若(武)蔵(守)の才一乃ある也(武)蔵(守)の
つらねの文は隠微な係乃洗媛と云ふは(武)蔵(守)の
秀也公の御名を以てし其信を以てし(武)蔵(守)の
才一乃ある也(武)蔵(守)の才一乃ある也(武)蔵(守)の
禮也(武)蔵(守)の才一乃ある也(武)蔵(守)の
ありしは(武)蔵(守)の才一乃ある也(武)蔵(守)の
何れに(武)蔵(守)の才一乃ある也(武)蔵(守)の
は(武)蔵(守)の才一乃ある也(武)蔵(守)の
若(武)蔵(守)の才一乃ある也(武)蔵(守)の

ありては、
神言さるる人よ、
見く、
諸士、
弟そ、
し、
ま、

きけ、
ま、
事、
か、
あ、
為、
あ、
世、

河の舟とまゝ——まゝ——
ておの信治の舟——とく——ある林の音の正初納
る者らにふたつ行儀時を備て力中心控死
しよとる云道取るとあるはれきとくこくた定
はひておの——ととく——秀家の又厚田
おの式母とあるの道——とく——田部とく
れ——足利とく地の間とあるはれきとく
幾玉の時あるとく——とく——

華とる物死を——秀家督とく本徳——とく
の所とあるはれきとく——とく——
申細々にいふ所とく——とく——
花とる備り——とく——
忠あるとく——とく——
して行儀ゆ——とく——
とく——とく——
といふはれきとく——とく——

守時を由りて縁故に科言事と云ふを
知て証成出年とありて其の由は
乃ちその中一四巻の文章を絶して
天時を断つて之を古にたて置る事
思ふに一とある長を属するに似て
大五條をよみて一ゆへに改るは未世に
吾道にまゝく一と一は言ひ絶出の
といふはふらむ事と云ふの事初に
聖武守と云ふ

て神代をいふと一一字を信じて
其の神代と一と名切をいふと
神代といふと一とありて一人を
よとありて其の神代といふと
をいふと一とありて其の神代
といふと一とありて其の神代
流るる事と云ふと一とありて
其の神代といふと一とありて
其の神代といふと一とありて

て穢の事を知くは海を渡る事を知る事
也も亦一の事にして勝てん事くは亦一の事
かゝる事は何れありんか事なる事か
申に勝の事なる事か事なる事か
也と夫れ亦一の事なる事か事なる事か
事なる事か事なる事か事なる事か
可なる事か事なる事か事なる事か
やし事なる事か事なる事か事なる事か

あつた事か事なる事か事なる事か
事なる事か事なる事か事なる事か
くは事なる事か事なる事か事なる事か
の事なる事か事なる事か事なる事か
始て事なる事か事なる事か事なる事か
事なる事か事なる事か事なる事か
事なる事か事なる事か事なる事か
事なる事か事なる事か事なる事か
事なる事か事なる事か事なる事か
事なる事か事なる事か事なる事か

あーくーーと名乗りあへ母らおふこ
よゝゝのきんこゝのきんこゝのきんこゝ
之の姓もなまらもいせむ名寄る件用いあふ
候よゝゝのきんこゝのきんこゝのきんこゝ
ち揚子治るし何あしあふまきのけよりん
也し中事とあしつゝしつゝしつゝしつゝ
あしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
あしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
あしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ

三

二五
義徳早之阿波巻の二紙

白木屋

Blank page with some faint markings and a small stamp at the bottom right.

干白木屋

Blank page with very faint, illegible markings and a small orange stain at the bottom right.



新刊
卷一
目錄

卷一
目錄

卷一

卷一
目錄